

2018年1月4日号

検索

## 20の技術が変える未来

### 予測09

### 3D地図でグーグルに一矢

### 自動運転

2018年、日本の自動車メーカーなどが大同団結し、自動運転で欠かせない地図データの開発で米グーグルに一矢報いる。

内閣府は2017年10月、「ダイナミックマップ」と呼ばれる3次元の地図データ検証や、運転者の集中度合いに関するデータ収集など自動運転技術を進めるための大規模実証実験を始めた。

注目はダイナミックマップだ。道路の形状や構造物などの3次元データに加えて渋滞や工事などの情報をリアルタイムで配信する仕組みである。

大規模実験で使うダイナミックマップの仕様は内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）が固めた。「国内の自動車メーカーに共通するデータとして使う」（内閣府の竹馬真樹政策調査員）。

集めたのはトヨタ自動車や日産自動車、ホンダなどの大手自動車メーカーだけでなく、名古屋大学や研究機関など総勢21機関。オールジャパンで各分野のリーダー格を招集し、政府が旗を振り、ダイナミックマップを中心とする自動運転システムの整備を加速させる。独フォルクスワーゲンや独ポッシュなど海外勢の日本法人も招き入れた。海外動向を押さえつつ、日本の技術の世界展開を狙う。

実証事件では高速道路約300キロメートルを実験用コースに指定した。常磐自動車道の谷田部インターチェンジ（IC）付近に設けた専用コースから新東名高速道路の清水ジャンクション（JCT）までである。参加機関のいずれかが実験用コースを1日1往復させるとすると、1年間の合計の走行距離は21万9000キロメートルとなる。地球5周分以上だ。

#### 図 自動運転の実証実験における日米の走行距離比較

米国が自動運転向け地図データの開発で先行（写真提供：米ウェイモ）

#### コラム目次

予測01 職場の人手不足が解消  
RPA

予測02 毎週、管理職の送別会  
AI

予測03 日本全土にセンサー網  
LPWA

予測04 さらにマルウェア感染  
次世代アンチウイルスソフト

予測05 所有や雇用の常識が瓦解  
シェアリングエコノミー

予測06 トヨタのカイゼン限界突破  
VR

予測07 航空・自動車も接続大開放  
API管理

#### バックナンバー



バックナンバー一覧

#### アクセスランキング

【20の技術が変える未来】  
予測01 職場の人手不足が解消

【20の技術が変える未来】  
予測07 航空・自動車も接続大開放

【ニュース&レポート】  
銀行法、GDPR、民泊法、IoT減税… 知  
らないとピンチ、今年の法改正

【20の技術が変える未来】  
予測09 3D地図でグーグルに一矢

【20の技術が変える未来】  
予測20 「門前払い」が消える

【20の技術が変える未来】  
予測10 中小企業、デジタル下剋上

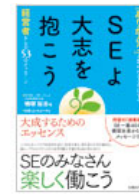
【ニュース&レポート】  
スパコン開発のPEZY社長逮捕 NEDO助  
成金を不正受給容疑

【インタビュー】  
IT部員はボーナスいっぱい ブロックチェ  
ーン、適材適所で

【20の技術が変える未来】  
予測04 さらにマルウェア感染

関連書籍

SEよ大志を抱こう



SEのやりがいを改めて認識できるとともに、楽しく働きながら大成するための「気付き」が得られます。これからの時代を生きるSEに必要な心構えや物事の考え方を体系的に整理し、53のメッセージとしてまとめています。『日経コンピュータ』の人気連載を基にした、SE一筋40年の著者による待望の初書籍です。

( A5判、276ページ、1,680円 )



[画像のクリックで拡大表示]

## 150周遅れを巻き返す

自動運転向けの3次元地図データの開発は米グーグルが先行する。2016年12月に自動運転車の開発プロジェクトを分社化して設立した米ウェイモは、2017年11月までに実験用車両を約640万キロメートル走らせている。地球約160周分を走らせてもまだ自動運転車の商用化には至っていない。実用に耐えうる3次元地図データの構築には膨大な検証が必要という表れだ。

日本がウェイモに勝つには150周分以上の遅れを巻き返す必要がある。実証実験参画の21機関全てが実験コースを毎日1往復半走れば1年で約690万キロメートル分を検証できる。オールジャパンの手腕が問われる。

ツイート

0

## 目次